



仙台地本「第38回定期大会」大会宣言

大会宣言

私たちは本日、「イベントホール松栄」にて第38回定期大会を開催した。21春闘の敗北総括を起点に職場から積み上げた議論を更に発展させ、「新生JR東労組運動宣言」を職場運動の基礎にし、新たな時代の岐路に立つ私たちの未来を組織の総力で切り拓く方針を満場一致で確認した。

「変革2027」の実現に向けた組織の再編は、現業機関、附属機関、企画部門の再編や、業務の大幅な見直しが行われるJRになって最大の施策である。私たちは「新たな施策に対する5本柱」を基に未来の職場を創造し、職場と仕事と生活を守りながら更なる安全な鉄道の構築を目指さなければならない。働き方が大きく変化しようとしている中で、会社の動きを待つだけでは私たちの理想の未来を切り拓くことは出来ない。理想の職場や未来像を構想し、英知を結集させ、納得できる議論を私たちの手でつくり出していこう！今後、職場を起点につくり出す議論を通じて施策を我がものとするべく、安全を最優先課題として実務に生きる交渉を積み上げていく。同時に職場の隅々まで点検し、日常に埋もれている業務課題を掘り起こして検証を積み重ねながら、安全で安心して働ける職場を全組合員でつくり出していこう！

私たちがたたかう上で組織強化・拡大は必要不可欠である。21春闘を機に組合員と共に職場運動の質を高め、相互の連携を強め、組合員の声を基に要求を貫徹するために最後まで諦めずにたたかい抜く姿勢を確固たるものにしてきた。22春闘や期末手当の再申し入れをしてまでたたかう意義は、赤字を理由に低額回答を繰り返す会社の姿勢に対峙し、職場に蔓延する「諦め感」を私たちの力で払拭することにある。これまで以上に職場の掲示板を活用したたたかいを重視し、多くの声を交渉に反映させ、諦めずに、揺るぎないたたかいを構築できたことは、この一年の最大の成果である。組織拡大は組合未加入者と広く接点を持ち、労働者としての魂を継承できる仲間を増やすことであり、全組合員が一丸となって取り組む必要がある。まもなくJR採用者だけの職場になる。先達が築き上げてきた精神は、国鉄改革や完全民営化、東日本大震災などの様々な苦難を乗り越え、未来を見据えた理想像を確立してつくり上げてきた努力の結晶である。今こそ、その精神を受け継ぎ、全組合員で組織強化・拡大に邁進していこう！

地方ローカル線では多くの課題を抱えている。JR東日本会社は、早ければ今月中にも区間別収支を公表し、輸送モードの転換として具体的な議論を自治体と開始すると言われている。単に利用者の減少による代替輸送への転換では、地域の更なる衰退化に拍車をかけるだけではなく、地方にしかない日本特有の文化や景観が埋没してしまうことに繋がる。私たちは地域や関係する方々との連帯を強化しながら、本音の議論を積み上げて独自の政策として提言することが急務の課題である。地方に活気を取り戻し、鉄道と雇用を守るたたかいとして運動を展開していこう！

ウクライナでの戦争で真実とは何かを改めて学んだ。真実を掴むことによって組織の質が高まっていく。時に隠され見えなくなる真実を掴み出す為には、全組合員の力が必要であり、一人も欠かすことなくたたかいに結集することである。この一年で大きく飛躍した私たちは決して歩みを止めず、職場の真の声を掴み、実践を通じた組織強化・拡大を堂々と押し進めていこう！

以上、宣言する。

2022年7月9日
東日本旅客鉄道労働組合
仙台地方本部
第38回定期大会

組合員の生活と雇用を守り、安全で安心して働ける職場と社会を実現しよう！